

令和4年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、教員は肯定的回答率85%と現状維持であるが、生徒は78%と3ポイント減少した。1人1台端末の活用の工夫や観点別学習状況の評価の研究等を一層推進する必要がある。

・特に「学習意欲の高い生徒に対する学習指導」に関する質問に対し、教員の肯定的回答率は72%と6ポイント減少した。無論、到達度の低い生徒に対する学習指導も大切であるが、「モチベーションを高め、自学自習を習慣化する」指導や校内環境を整備したい。

【学校生活等】

・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は89%と、昨年から現状維持であった。しばらくは6クラス規模で落ち着くと予想されるので、生徒の意見を取り入れつつ、この条件で取り組める内容を精選し、準備の簡素化を図る。

・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は80%と高めで維持しているが、実際の入部率は55%である。1・2年生では60%と上昇しているので、教員定数の減少や働き方改革の推進により環境は厳しいが、合同部活動の協議を進めつつ、今後も部活動活性化に向けて工夫を凝らしたい。

【生徒指導等】

・保護者向けの質問を「指導に力を入れている」から「指導は理解できる」に変更したが、肯定的回答率は昨年度に続き85%と比較的高かった。一定の理解を得られていると思われるが、一方で生徒からは「もっと自由にして欲しい」という声がある。現状と時代の流れを検証しながら見直しを継続する。

【学校運営等】

・「日々の教育活動における問題意識や悩みを気軽に相談しあえる職場の人間関係」という質問に対する教職員の肯定的回答率は81%と14ポイント上昇し、「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいた教育活動」という質問に対する教職員の肯定的回答率は79%と10ポイント上昇した。この校内の雰囲気を変えず、学習指導の工夫及び生徒会活動や部活動の活性化につなげていきたい。

・「相互授業見学や校内研修が計画的に実施され、教育実践に役立つ内容」という質問に対し、教職員の肯定的回答率は94%と、昨年に続いて高い値であった。授業を短縮する回数は抑えつつ、研修時間を確保し、年間7回研修を開催できた。新学習指導要領も2年目を迎え、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育活動の質の一層の向上を図ってきたい。